



# サポセン

だより

第3号  
2021.4

「サポセン」は、埼玉県障害者雇用総合サポートセンターの愛称です。

## 特集 障害者と共に働く事業所の考え方と取り組み方

今回のサポセンだよりは、サポセンPR動画で取材をさせていただいた障害者雇用に積極的に取り組む4つの事業所のご紹介です。

また、新型コロナウイルス感染症対策についてもお話を伺ってきました。

それぞれの事業所の考え方や取り組み方をぜひサポセンPR動画と併せてご覧ください。

### 有限会社ノア (クリーニング業)



有限会社ノアは、富士見市の本社工場及び9店舗を展開する地域に愛されるクリーニング店です。

従業員52名のうち、6名の障害者(知的5名・精神1名)が4名の正社員やパートの皆さんと一緒に活躍しています。

#### 「障害者だから」という考えはない

ノアの谷田会長は、障害のある従業員について、「皆、会社にとってかけがえのない戦力です。本当にしっかり仕事してくれます。障害者だから、という考えはないですね。

従業員は私の家族です。心と心でつながっているんですよ。」と笑顔で語ってくれました。

ノアでは、従業員の勤続年数が大変長く、24年前に初めて採用した障害のある従業員が現在も活躍しています。



谷田会長

#### 「頑張れる雰囲気」が能力を引き出す

障害のある従業員の一人に、より高度な作業にチャレンジしてもらったことがあります。

その従業員が時間をかけて頑張り、仕事ができるようになると、ほかの障害のある従業員も刺激を受けてチャレンジし、できるようになりました。

従業員のやる気や能力を引き出すためには、会社の「頑張れる雰囲気」が大切なのです。

谷田会長がアイロンがけをし始めると、「やるよ」と、すぐに仕事を取られてしまうそうです。



#### 時間をかけて戦力になっていく

「経営者は『障害者を採用したら時間をかけず、すぐ戦力にしよう』と考えることが大切です。時間をかければ仕事は必ずできるようになります。」というのがノアの考え方です。

時間をかけて教えた技術はしっかりと身につき、徐々に作業効率も上がっていきます。

そして大きな戦力になっていくのです。



#### 新型コロナウイルス感染症の影響が仕事の幅を広げるチャンスに

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で在宅勤務が増え、ワイシャツのクリーニング注文が激減しました。

このため、ボタン掛けだけを14年間やってきた従業員にたたみ業務もやってもらうことにしました。

最初は嫌がっていた従業員も今では「たたみの方が好き」と言うほどきれいに早く仕上げられるようになり、ボタン掛けが終わるとたたみ業務に自ら動くことができるまでになりました。

今まで会社も本人も、その障害特性から、できる仕事を決めつけてしまっていたことに気づいたのだそうです。

# 株式会社 大宮鍍金工業 (金属表面処理業)



株式会社大宮鍍金工業は、さいたま市と川越市に工場を持つ自動車部品などの金属表面処理メーカーです。従業員60名のうち10名の知的障害者が高い技術で会社を支えています。

## 人手不足がきっかけ

「先代社長の時代に、人手不足のため、障害者を雇用している同業者から中学校の特殊学級(現:特別支援学級)を紹介してもらい、実習を経て採用したのが障害者雇用のきっかけです。

その時に採用した従業員がとてもよく働いてくれたので、その後も次々に当社に合う人を採用してきました。」と出野社長は語ります。



出野社長

## 障害者雇用は自然な配慮の積み重ね

障害のある従業員に対して、現場の管理者やほかの従業員はちょっとした声掛けなど、ごく自然に配慮をしています。

こういった小さな配慮の積み重ねが、従業員の勤続年数の長さにも表れ、一番長い人は30年以上働いています。

## 彼らに合う作業ポジションはある

出野社長は、障害のある従業員に合う作業ポジションは必ずあると考えています。

作業を覚えるまで時間はかかりますが、覚えると早く正確にできます。

根気のいる作業をこなし、数百種類もの製品の扱い方も記憶します。



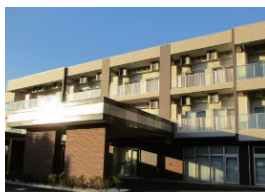
その仕事ぶりは周りの人からも認められ、本人のやる気にもつながっています。

## 新型コロナウイルス感染症対策は万全

障害のある従業員を含め、マスクの着用や消毒など感染症対策をしっかりと行っています。

ただ、話すことが好きな従業員は、すぐ人に近寄ってしまうので、そこは気を付けるよう繰り返し伝えているそうです。

# 社会福祉法人 至福の会 むさしの園わかば (特別養護老人ホーム)



社会福祉法人至福の会は、狭山市内で特別養護老人ホームやデイサービスセンター、保育園を運営しています。従業員262名のうち5名の障害者(知的3名、精神2名)が活躍しています。

今回は、特別養護老人ホームむさしの園わかばでお話を伺いました。

## 支援機関と連携して職場定着

むさしの園わかばでは、原則、市町村障害者就労支援センターの登録者を雇用しています。

2か月に1度、就労支援センターのスタッフに障害のある従業員と面談をしてもらい、課題が見つかったら話し合いをして解決を図ります。

また、困ったことがあると、サポセンに電話をしてアドバイザーから助言を受けたり、精神保健福祉士に相談したりするなど、積極的に支援機関と連携し、職場定着を図っています。

## 新型コロナウイルス感染症対策の徹底

特別養護老人ホームでは、多くの高齢者が生活しているため、感染症対策には特に細心の注意を払っています。

障害のある従業員もしっかりと理解し、抵抗感なく、出勤時の検温、マスク着用、消毒を徹底し行っています。



## サポセン 当事者 インタビュー

むさしの園わかばに勤務して4年目を迎え、生き生きと働く森澤さんにお話を伺いました。

Q どんなお仕事をしていますか?  
A ユニット(個室)の掃除です。ほかの場所の掃除もやっています。

Q お仕事はいかがですか?  
A 掃除は好きで、楽しいです。

Q 掃除で大変なことはありますか?  
A 床の食べこぼしやシミをきれいにするのが大変です。汚れが落ちない時はやり直しもします。



森澤さん



### 施設長からひとこと

森澤さんは大変真面目で汗を流しながら一生懸命に掃除してくれます。とても信頼しています。



# 株式会社JR東日本 グリーンパートナーズ (特例子会社)



株式会社JR東日本グリーンパートナーズは、戸田市に本社のあるJR東日本の特例子会社です。

業務の基軸は2,000種類以上あるJR東日本の制服の取り扱いで、従業員82名のうち38名の障害者(身体1名、知的35名、精神2名)が活躍しています。

## 相談はいつでもどうぞ

JR東日本グリーンパートナーズでは、「相談はいつでもどうぞ」と、指導員が障害のある従業員の話のすぐには聴く態勢をとっています。

そして、その相談内容を必要に応じてサポセンをはじめ支援機関と連携するなどして課題を解決していきます。

会社設立から11年、その間の退職者はわずかで障害のある従業員はしっかり定着しています。

## 熟練技!木のストロー

JR東日本では、新幹線の車内で木のストローを試行導入することになり、その製作をJR東日本グリーンパートナーズで行っています。



ストロー作りは1本1本丁寧に手作業で行います。もはや熟練技です。

## 感染症対策は試行錯誤の連続

令和2年4月の緊急事態宣言を受け、障害のある従業員は6月中旬まで自宅待機となり、その後、7月から本格的に勤務を再開しました。

当初はかなり混乱したとのことで、「新型コロナウイルス感染症対策は、とにかく試行錯誤の連続でした」と松井社長。

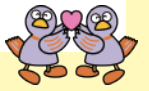


松井社長

密にならないよう、通勤時間をずらすことにも、決まった時間に家を出る習慣が身についている従業員は行動を変えることができず、どうしてもいつもと同じ時間に来てしまうという状況が続きました。

このため、指導員は従業員と面談を繰り返し、「〇時の電車に乗る」というシートを作成して視覚情報で伝え、自宅でもシートを掲出しておくことで、ようやく指定の電車に乗れるようになってきました。

感染症対策のために、日々考え取り組んでいるそうです。



## サポセン NEWS

### 民間企業の法定雇用率が2.3%になりました。

障害に関係なく、希望や能力に応じて、誰もが職業を通じた社会参加のできる「共生社会」実現の理念の下、すべての事業主には、法定雇用率以上の割合で障害者を雇用する義務があります。

この法定雇用率が、令和3年3月1日から次のように変わりました。(資料:厚生労働省)

事業主区分	現行	R3.3.1~
民間企業	2.2%	⇒ 2.3%
国、地方公共団体等	2.5%	⇒ 2.6%
都道府県等の教育委員会	2.4%	⇒ 2.5%

今回の法定雇用率変更に伴い、対象となる事業主の範囲も次のように変わりました。

**従業員45.5人以上 ⇒ 従業員43.5人以上**

新たに障害者を雇用する必要が生じた事業所の皆様には、サポセンがお手伝いいたします。

まずはお気軽にご相談を!

障害者雇用ヘルプデスク **0120-540-271**

こようをつないで

### 注目! 「サポセンPR動画」公開!

埼玉県では、障害者雇用やサポセンの支援についてより多くの皆様に知っていただくため、「サポセンPR動画」を令和3年3月から県公式YouTube「サイタマどろが」で公開しました。

ぜひ一度ご覧ください。



[スタジオをイメージした約10分の見やすい動画となっています。]

この動画は、県ホームページ内「埼玉県障害者雇用総合サポートセンター」のページからご覧いただけます。



ホームページはこちら



# 埼玉県障害者雇用総合サポートセンター ご案内

埼玉県障害者雇用総合サポートセンターは、埼玉県が運営する企業の障害者雇用を支援する専門機関です。  
企業の障害者雇用を全力でサポートします。



サポセンの  
支援

- 雇用に適した仕事を提案します
- 3日～5日の短期雇用体験ができます
- 働きやすい職場づくりを助言します
- 職場に付き添って支援します



所在地

〒330-0074  
さいたま市浦和区北浦和5-6-5  
浦和合同庁舎 別館1階

利用時間

月～金 午前8時30分～午後5時  
(祝日及び12/29～1/3を除く)



ホームページはこちら

## 雇用開拓業務部門

障害者雇用開拓員が企業を訪問し、障害者雇用制度の仕組みや各種助成制度について情報提供します。



☎ 048-822-3111

## 企業支援業務部門

障害者雇用に向けて、専門のアドバイザーが具体的な助言・提案をします。  
短期(3日～5日)の雇用体験(職場体験実習の受入れ)ができます。

☎ 048-827-0540

## 定着支援業務部門

障害のある従業員が職場に適應できるよう、ジョブコーチを派遣しサポートします。  
支援機関のスキルアップもお手伝いします。

☎ 048-823-9020

障害者雇用に関するちょっとした困りごとは「障害者雇用ヘルプデスク」にお電話ください。

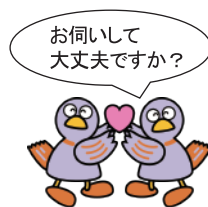
障害者雇用ヘルプデスク  
こようをつないで  
☎ 0120-540-271



【交通】JR北浦和駅西口から徒歩約10分

## サポセンの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

サポセンでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組みながら、雇用開拓、研修・セミナー、個別企業支援、ジョブコーチ派遣などの各種支援を行っています。  
企業、支援機関の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



企業や障害のある従業員の意向を最優先にします。



サポセンスタッフは、感染予防を徹底します。



状況により支援の中止をお願いすることがあります。

ガイドライン

## 障害者雇用事業所における「彩の国『新しい生活様式』」実践ガイドライン

サポセンでは、障害者を雇用する事業所が、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら社会経済活動を行う「彩の国『新しい生活様式』」を実践するに当たり、障害のある従業員の方々への配慮ポイントを加えて整理した実践ガイドラインを作成しました。

県ホームページからダウンロードいただき、皆様の事業所での取り組みにお役立てください。  
対応方法についてのお悩みは、いつでもサポセン(障害者雇用ヘルプデスク 0120-540-271)にご相談ください。



ホームページはこちら